

第3節

学習の様子と親子関係

1. 学習時間と親子関係

学校段階を問わず、親との会話が多くの子どものほうが、少ない子どもより、家での学習時間が長い。平均時間でみると、15分程度の違いがある。また、親との会話量別に、家での学習を「ほとんどしない」割合をみると、中2生や高2生でその差が大きい。

本節では、子どもの学習の様子が親子関係とどのように関連しているのかに絞ってみたい。

親子のかかわりの量的な側面としては、親との会話量があげられる。すでに2章1節でみたように、親との会話は、「学校のできごとについて」「勉強や成績のことについて」「将来や進路のことについて」「友だちのことについて」「社会のできごとやニュースについて」の5項目で、父親や母親それぞれと、どのくらい話をするかをたずねている。そこで、これら合計10項目について、「よく話をする」から「ぜんぜん話をしない」までの回答を得点とみなし、その合計点を会話量の指標とした。そのうえで、学校段階ごとに、各群の度数がほぼ半分ずつになるように、「会話がが多い」群と「会話がが少ない」群を設定した。

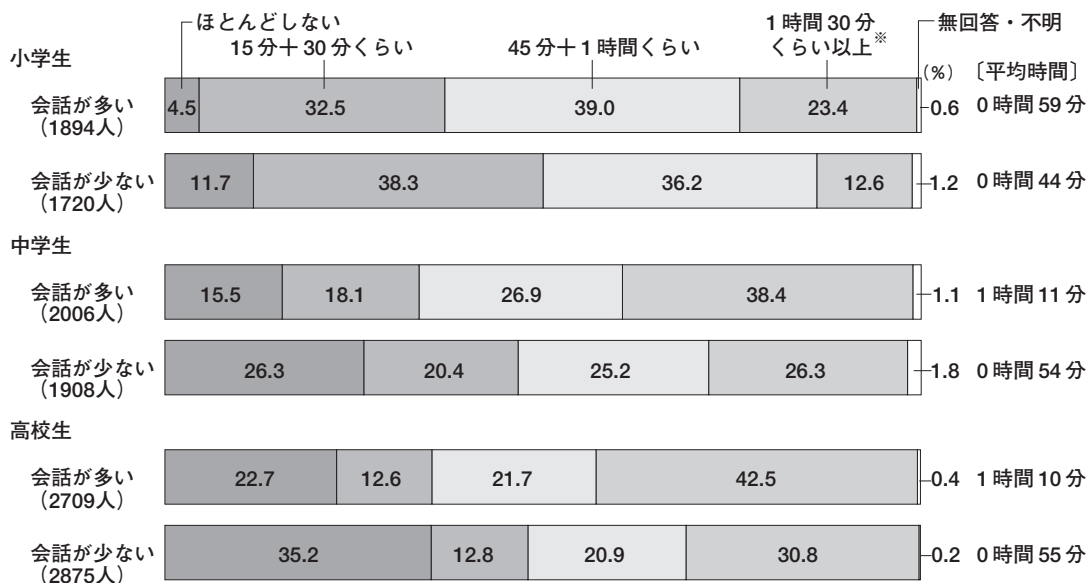
◆ 学習時間と親との会話量

まず、学習時間と親との会話量の関連をみ

てみよう。図3-3-1には、平日の家での学習時間と親との会話量の関連が示してある。これをみると、どの学校段階でも、「会話がが多い」群のほうが「会話がが少ない」群よりも、学習時間が長い傾向がみられる。平均時間で比べてみると、どの学校段階でも、「会話がが多い」群のほうが、15分程度長い。ただし、1章1節でみたように、家での学習時間は、学校段階が上がるにつれて、少ない層と多い層に二極分化していく傾向があった。家での学習時間と親との会話量の間には関連がみられるものの、全体としてみれば、この二極化傾向には変わりがないようである。

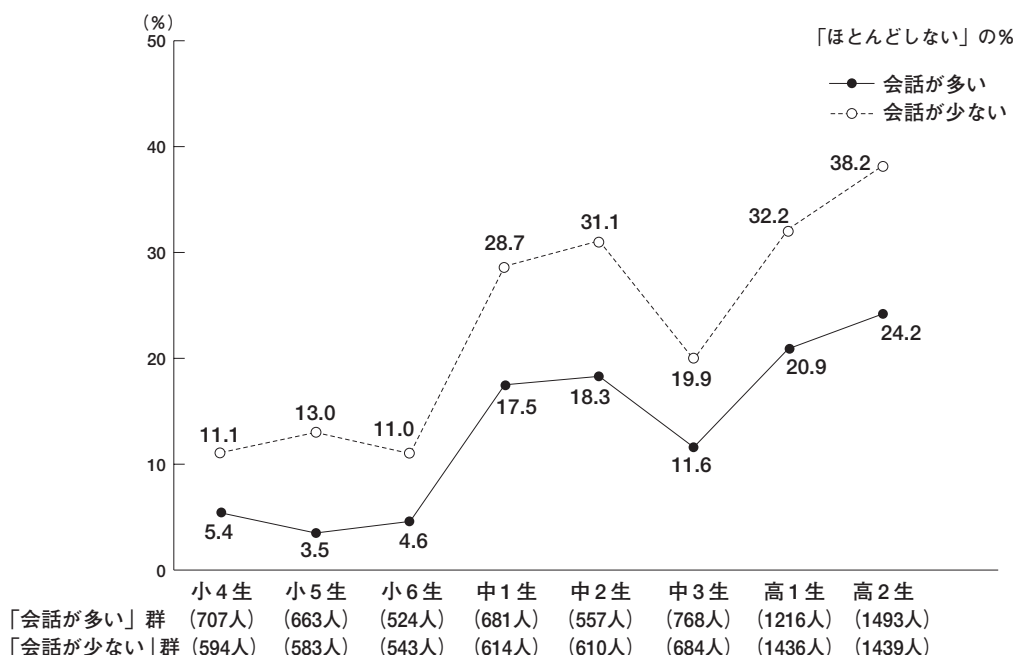
親との会話量別に、平日の家での学習を「ほとんどしない」割合を学年別にみたものが図3-3-2である。これによると、中1生と中2生、高1生と高2生で10ポイント以上の差がみられる。なかでも中2生・高2生での差が大きい。とくに新たな学校に入った段階や、「中だるみ」ともいわれる中間学年で、親のかかわりが重要なかもしれない。

■図3-3-1 平日の家での学習時間（学校段階別、親との会話量別）



注1) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話がが多い」群と「会話が
少ない」群を設定した
注2) ※「1時間30分くらい以上」＝「1時間30分くらい」＋「2時間くらい」＋「2時間30分くらい」＋「3時間くらい」＋
「3時間以上」
注3) 平均時間は「無回答・不明」を除いて算出

■図3-3-2 平日の家での学習時間（「ほとんどしない」）（学年別、親との会話量別）



注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話がが多い」群と
「会話がが少ない」群を設定した

2. 学習の取り組み方と親子関係

どの学校段階でも、親との会話が多い子どものほうが、少ない子どもよりも、知的好奇心や学習意欲などが高い。しかし、学習方法へのとまどいは、小学生では親との会話量による差がみられるものの、中・高生になるとあまり差がみられない。また、学習に対する後悔については、どの学校段階でも親との会話量による差がほとんどみられない。

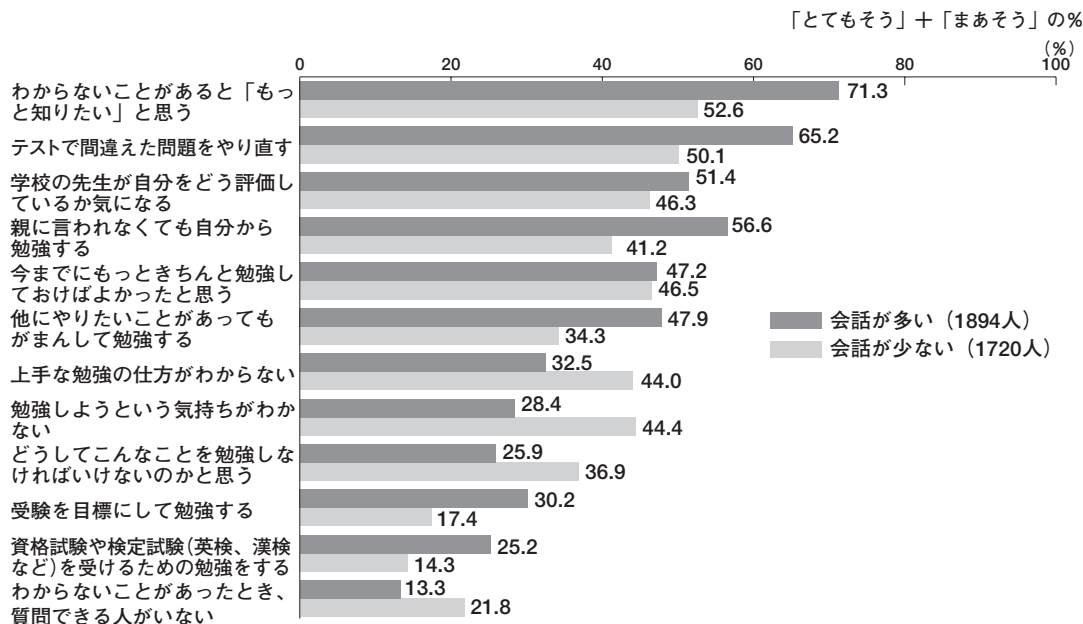
3章1節でみたように、学校段階が上がると、学習に対して後悔やとまどいを感じる子どもが増え、学習意欲がもてない子どもも増える傾向にあった。では、親との会話量との関連はみられるのだろうか。図3-3-3～図3-3-5は、学校段階ごとに学習の取り組み方を親との会話量別にみたものである。

◆ 知的好奇心と親のかかわり

「わからないことがあると『もっと知りたい』と思う」に「とてもそう」+「まあそう」

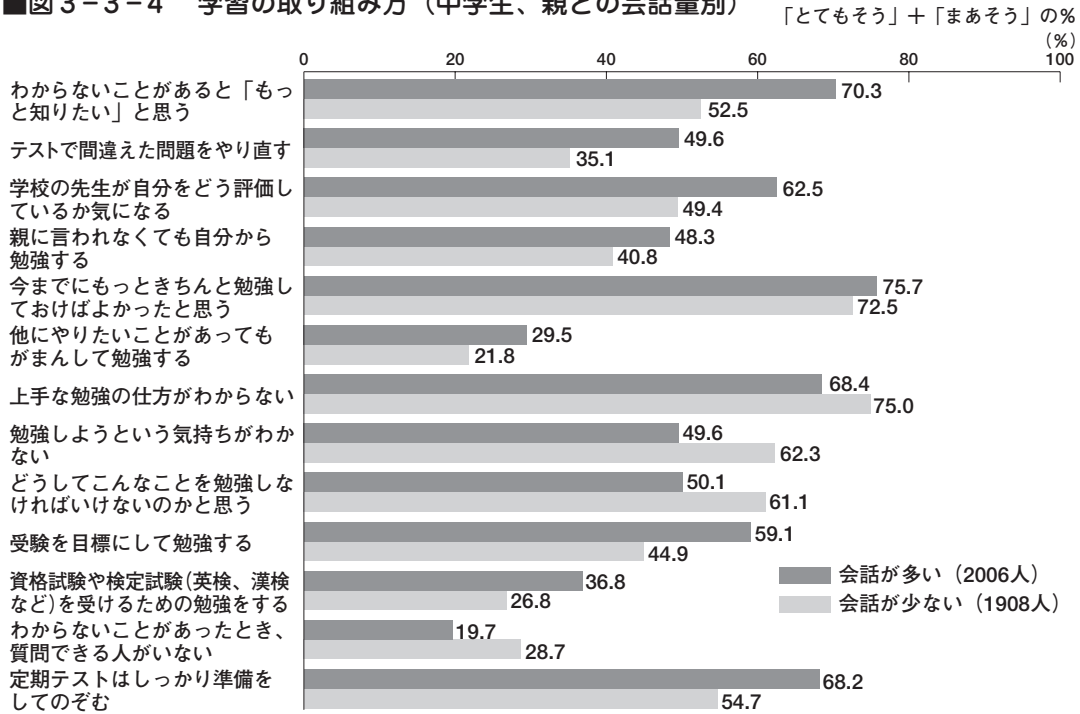
と回答した割合をみると、その差が最も大きかった小学生では、「会話が多い」群が71.3%なのに対し、「会話が少ない」群は52.6%と、18.7ポイントもの開きがある。中学生でも17.8ポイントの差がみられた（「会話が多い」群70.3%＞「会話が少ない」群52.5%）。高校生になると、その差はやや小さくなるものの、11.8ポイントの差がある。とくに小・中学生の段階では、親との豊富な会話やそうしたことが可能な環境は、知的好奇心が育まれる土壌として大切と思われる。

■図3-3-3 学習の取り組み方（小学生、親との会話量別）



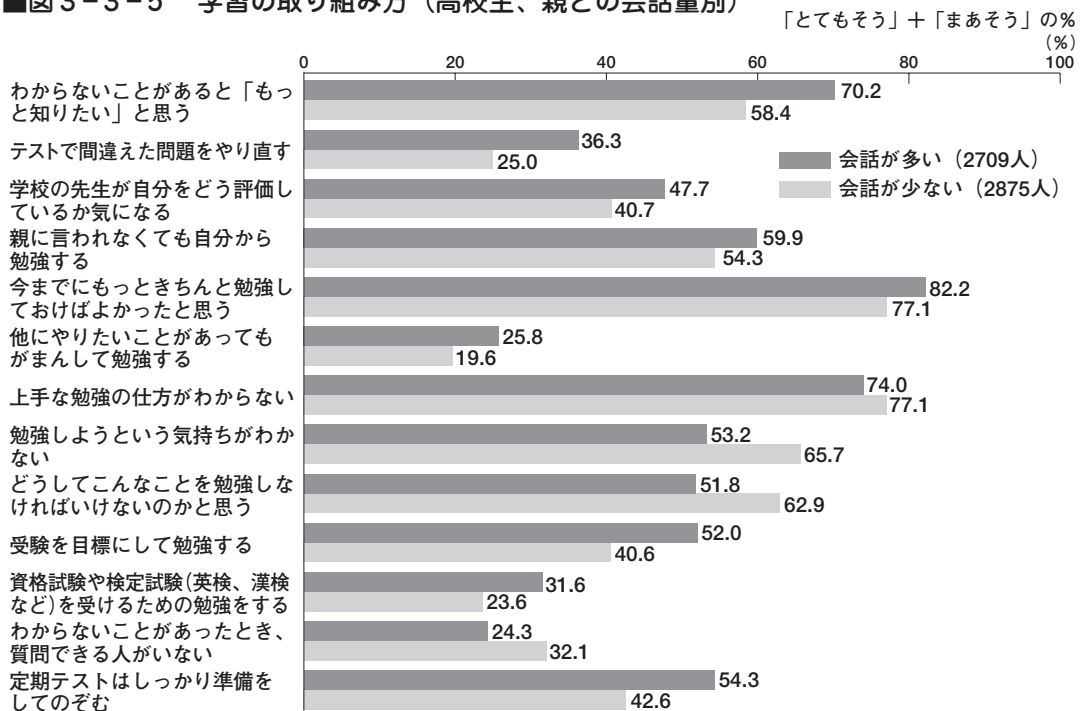
注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話が多い」群と「会話が少ない」群を設定した

■図3-3-4 学習の取り組み方（中学生、親との会話量別）



注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話がが多い」群と「会話が少ない」群を設定した

■図3-3-5 学習の取り組み方（高校生、親との会話量別）



注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話がが多い」群と「会話が少ない」群を設定した

◆学習への意欲・姿勢と親のかかわり

さらに、中・高生になると絶対数が増える「勉強しようという気持ちがわからない」「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」といった学習意欲と、親との会話量との間にも、学校段階を問わず、関連性がみられる。たとえば、「勉強しようという気持ちがわからない」では、小学生で16.0ポイントの差（「会話がが多い」群28.4%＜「会話がが少ない」群44.4%、以下同様）があり、中・高生でもそれぞれ12.7ポイント（同49.6%＜62.3%）、12.5ポイント（同53.2%＜65.7%）の差がみられる。学校段階を問わず、「会話がが多い」群のほうが「会話がが少ない」群よりも、学習意欲をもっているようだ。

また、「受験を目標にして勉強する」といった学習の目標や、「テストで間違えた問題をやり直す」といった反復学習の姿勢においても、学校段階にかかわらず、親との会話量が多い子どものほうが、「とてもそう」＋「まあそう」と答えた割合は10ポイント以上高い。たとえば、「テストで間違えた問題をやり直す」に「とてもそう」＋「まあそう」と答えた小学生は、「会話がが多い」群が65.2%なのに対し、「会話がが少ない」群では50.1%と、15.1ポイントの差がある。また同様に、中学生では49.6%と35.1%で14.5ポイントの差、高校生では36.3%と25.0%で11.3ポイントの差となっている。このように、親との会話は子どもが学習に向かう姿勢と関連していることがわかる。

◆学習方法の悩みや後悔は親との会話でも消えない

このような傾向の一方で、「上手な勉強の仕方がわからない」といった学習方法についてのとまどいは、学校段階が上がるとともに、親との会話量との関連が薄れていく。図3-3-6で「とてもそう」＋「まあそう」と回答した割合の推移をみると、小学生では「会話がが多い」群が32.5%、「会話がが少ない」群

が44.0%と11.5ポイントの差がみられるが、中・高生ではその差は小さくなる。また、同様に図3-3-7をみると、「親に言われなくても自分から勉強する」といった自律的な学習の姿勢についても、中・高生になると、親との会話量による差が小さくなることがわかる。

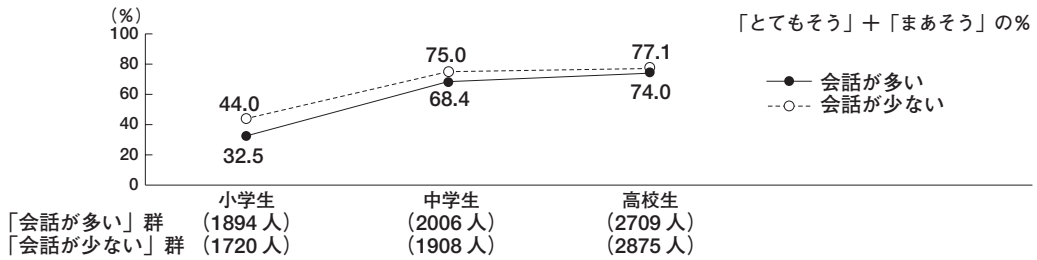
また、「今までにもっときちんと勉強しておけばよかったと思う」といった学習に対する後悔については、学校段階を通して、親との会話量による差はほとんどみられない（図3-3-8）。高校生では、「会話がが多い」群のほうが「とてもそう」＋「まあそう」と回答する割合はやや高いが、その差は5ポイント程度にとどまる。こうした後悔やとまどいは、親子関係だけでは消えない大きな問題のようだ。

◆中学生にとっての評価・受験

中学生では、受験にかかわる項目で、特徴的な結果がみられた。図3-3-9には「学校の先生が自分をどう評価しているか気になる」について、「とてもそう」＋「まあそう」と回答した割合を学年別に示した。これによると、「会話がが多い」群のほうが「会話がが少ない」群よりも、「学校の先生が自分をどう評価しているか気になる」と回答した割合が高く、なかでも中学生にその傾向が強い。中2生をみてみると、「会話がが多い」群は、「会話がが少ない」群よりも「とてもそう」＋「まあそう」と回答した割合は15.0ポイントも高い（「会話がが多い」群63.0%＞「会話がが少ない」群48.0%）。

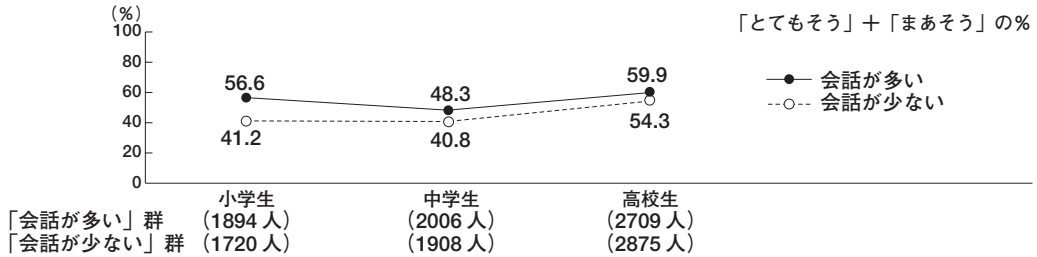
「受験を目標にして勉強する」に「とてもそう」＋「まあそう」と回答した中学生の割合は、「会話がが多い」群が59.1%、「会話がが少ない」群が44.9%であり、「会話がが多い」群に多い（図3-3-4）。親との会話が多い子どもは、確かに学習に意義を見いだしている。しかしその一方で、受験や評価に対しては敏感である様子も垣間みられる。

■図3-3-6 上手な勉強の仕方がわからない（学校段階別、親との会話量別）



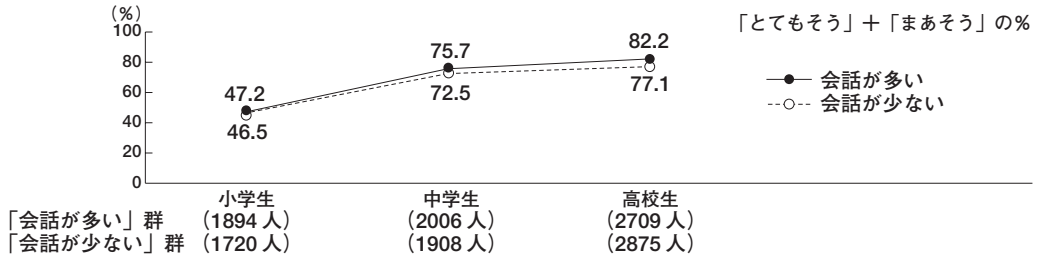
注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話が多い」群と「会話が少ない」群を設定した

■図3-3-7 親に言われなくても自分から勉強する（学校段階別、親との会話量別）



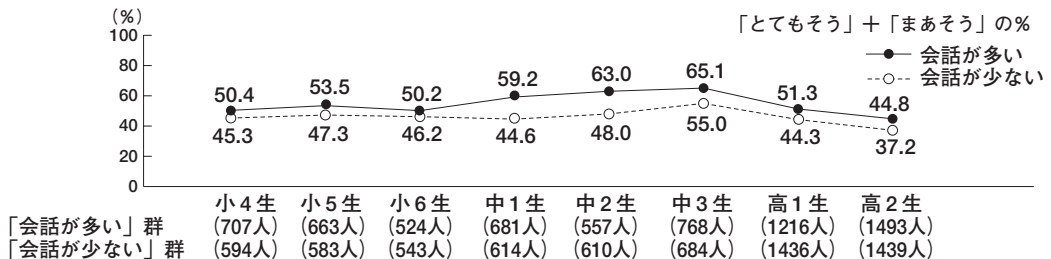
注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話が多い」群と「会話が少ない」群を設定した

■図3-3-8 今までにもっときちんと勉強しておけばよかったと思う（学校段階別、親との会話量別）



注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話が多い」群と「会話が少ない」群を設定した

■図3-3-9 学校の先生が自分をどう評価しているか気になる（学年別、親との会話量別）



注) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点により、「会話が多い」群と「会話が少ない」群を設定した

3. 勉強する理由と親子関係

親との会話が多い子どものほうが、少ない子どもよりも、勉強することにさまざまな理由や目的を見いだしている。とくに勉強に対するポジティブな理由においてこの差は大きい。

◆ ポジティブな理由での勉強

勉強する理由と親との会話量の関連を学校段階別にみたのが、表3-3-1である。どの学校段階でも、親との会話が多い子どものほうが、勉強することにさまざまな理由や目的を見いだしている。とくに勉強に対するポジティブな理由において差が大きい。たとえば、「いろいろな考え方を身につけることができるから」に「とてもそう」+「まあそう」と回答した小学生は、「会話が多い」群では77.7%なのに対して、「会話が少ない」群では55.1%と、22.6ポイントもの差がみられる。同様に、中学生では69.1%と50.5%で18.6ポイントの差、高校生では65.7%と52.1%で13.6ポイントの差となっており、いずれも「会話が多い」群のほうが多い。また、これ以外の理由も含め、高校生よりも、小・中学生のほうが両群の差は大きい傾向にある。

◆ ネガティブな理由での勉強

一方、「小学生（中学生・高校生）のうち勉強しないといけないと思うから」「勉強しないと頭が悪くなるから」「成績が悪いと親にしかられるから」といった義務感や恐怖心に基づく理由でも、両群の間に差はみられる。しかし、こうしたネガティブな理由での両群の差はポジティブな理由の場合に比べて小さい。

◆ 勉強する理由と親の関与

親の関与のしかたからもみてみよう。ここでは、親が「いいことをしたときにほめてくれる」「いつも『勉強しなさい』と言う」という2つのかかわりに注目し、それぞれの行動を親が「する」群と「しない」群に分けて、勉強する理由を比較した。

親が「いいことをしたときにほめてくれる」かどうかによって、比較したものが表3-3-2である。「する」群と「しない」群を比べると、「成績が良いと親がほめてくれるから」という理由でとくに差が大きく、「する」群のほうが、すべての学校段階で、およそ30ポイント高い。また、「問題が解けるとうれしいから」といった学ぶこと自体に楽しさを見いだしている理由に関しても、大きな差がみられる。

一方、親が「いつも『勉強しなさい』と言う」かどうかによって比較したのが表3-3-3である。「成績が悪いと親にしかられるから」という理由でとくに大きな差がみられ、中・高生になると「する」群と「しない」群の差は大きくなる。これ以外の理由では、両群の間に差はあまりみられない。

親の行動と子どもの学習行動・意識は相互に作用しあっており、これらの結果から、単純な因果関係を導き出すことはできない。しかし、親がどのように子どもと接するかということが、子どもの学習についての行動や意識と結びついていることは確かだろう。

■表3-3-1 勉強する理由（学校段階別、親との会話量別）

	小学生		中学生		高校生	
	会話が少ない (1720人)	会話が深い (1894人)	会話が少ない (1908人)	会話が深い (2006人)	会話が少ない (2875人)	会話が深い (2709人)
問題が解けるとうれしいから	63.8	<u>82.3</u>	56.1	<u>74.6</u>	62.8	<u>75.1</u>
いろいろな考え方を身につけることができるから	55.1	<u>77.7</u>	50.5	<u>69.1</u>	52.1	<u>65.7</u>
小学生（中学生・高校生）のうち勉強しないといけないと思うから	66.1	72.9	70.6	76.8	70.6	77.0
勉強しないと頭が悪くなるから	68.7	75.7	69.7	75.4	61.5	67.3
成績が悪いと親にしかられるから	31.6	30.4	41.0	43.5	32.3	35.9
成績が良いと親がほめてくれるから	48.1	<u>61.1</u>	31.9	<u>51.0</u>	23.3	<u>36.3</u>
友だちに負けたくないから	38.7	<u>54.4</u>	42.5	<u>58.8</u>	46.5	<u>57.3</u>
小学生：いい中学校や高校に入りたいから※	43.4	<u>64.8</u>	56.9	<u>72.4</u>	58.9	<u>69.1</u>
自分がつきたい仕事につくのに必要なだから	48.8	<u>71.2</u>	57.3	<u>74.7</u>	73.4	<u>85.6</u>

注1) 親との会話量：父親、母親それぞれとの会話量に関する合計10項目の回答の合計点より、「会話が深い」群と「会話が少ない」群を設定した

注2) —— は15ポイント以上の差 —— は10ポイント以上の差

注3) ※中学生：いい高校や大学に入りたいから 高校生：いい大学に入りたいから

■表3-3-2 勉強する理由と親の関与（学校段階別、「いいことをしたときにほめてくれる」別）

	小学生		中学生		高校生	
	しない (965人)	する (3275人)	しない (2112人)	する (2438人)	しない (3308人)	する (2743人)
問題が解けるとうれしいから	57.9	<u>77.4</u>	55.5	<u>73.8</u>	62.8	<u>76.0</u>
いろいろな考え方を身につけることができるから	53.2	<u>70.5</u>	51.9	<u>65.6</u>	54.3	63.3
小学生（中学生・高校生）のうち勉強しないといけないと思うから	60.1	<u>71.8</u>	69.7	76.7	70.5	76.4
勉強しないと頭が悪くなるから	65.0	74.5	68.7	75.7	60.9	67.7
成績が悪いと親にしかられるから	29.9	32.1	41.1	42.8	33.2	34.1
成績が良いと親がほめてくれるから	31.3	<u>62.0</u>	24.1	<u>57.5</u>	17.5	<u>43.6</u>
友だちに負けたくないから	36.0	<u>50.0</u>	42.2	<u>57.7</u>	46.8	<u>57.1</u>
小学生：いい中学校や高校に入りたいから※	41.2	<u>58.2</u>	58.0	<u>70.0</u>	60.1	66.6
自分がつきたい仕事につくのに必要なだから	49.0	<u>63.4</u>	59.4	<u>71.4</u>	75.8	83.0

注1) —— は15ポイント以上の差 —— は10ポイント以上の差 「とてもそう」＋「まあそう」の%

注2) ※中学生：いい高校や大学に入りたいから 高校生：いい大学に入りたいから

■表3-3-3 勉強する理由と親の関与（学校段階別、「いつも『勉強しなさい』と言う」別）

	小学生		中学生		高校生	
	しない (2497人)	する (1743人)	しない (2584人)	する (1966人)	しない (4191人)	する (1860人)
問題が解けるとうれしいから	73.8	71.8	66.1	64.3	69.7	66.7
いろいろな考え方を身につけることができるから	69.6	62.2	60.5	57.6	59.5	56.0
小学生（中学生・高校生）のうち勉強しないといけないと思うから	68.2	70.6	71.6	75.9	73.0	73.6
勉強しないと頭が悪くなるから	70.1	75.4	68.8	77.2	62.2	68.1
成績が悪いと親にしかられるから	23.1	<u>43.7</u>	26.9	<u>61.8</u>	22.5	<u>58.6</u>
成績が良いと親がほめてくれるから	51.2	60.5	37.6	<u>47.8</u>	27.5	33.4
友だちに負けたくないから	44.0	50.9	47.9	<u>53.8</u>	51.9	50.5
小学生：いい中学校や高校に入りたいから※	52.9	56.3	61.8	67.9	61.7	66.0
自分がつきたい仕事につくのに必要なだから	59.0	61.6	64.3	67.8	79.4	78.2

注1) —— は15ポイント以上の差 —— は10ポイント以上の差 「とてもそう」＋「まあそう」の%

注2) ※中学生：いい高校や大学に入りたいから 高校生：いい大学に入りたいから